



DBKだより

第26号

2022年1月15日
ドン・ボスコ基金



スリランカ ドン・ボスコ・マンクラムで学ぶ生徒たち

トピック

スリランカ ドン・ボスコ・マンクラム 院長と生徒からの感謝のたより／**ボリビア** 倉橋神父とボリビア管区への支援 感謝のたより／**日本** VIDES JAPAN ハッピーハウス&スマイルキッチンカー／**エチオピア** 内戦による避難民救援活動支援／**日本** ドン・ボスコ・オラトリオ 外国籍の若者たちの居場所／**東ティモール** 大水害緊急支援 感謝のたより／**ハイチ** 学校増設プロジェクト ハイチの子どもたちの未来のために／**南スーダン共和国** ジュバ修道院から 感謝のたより

恩人の皆さまへ

新年明けましておめでとうございます。今年も皆さまにとって喜びと希望に満ちた平和な年でありますようお祈り申し上げます。おかげ様で皆さまのご理解とご協力により、この度も下記のように国内外の助けを必要としている青少年たちを支援することができましたことを、心から感謝申し上げます。各々のご報告をご覧いただけたら幸いです。

支援先の1つ、スリランカのマンクラムからの10人の少年の手紙には感謝の言葉が溢れていました。「おかげさまで、学びの場や祈りの場を得ることができました。また食べることもできます」と。中でも食べることについては、皆が共通して関心があります。ある子は「肉4回、卵2回、魚2回、それに野菜」と記しています。これくらい鮮明に回数まで言えるこの子の以前の食生活はどうだったのだろうと想像します。き

っと貧しくて十分に食べることができなかったのではないのでしょうか。現在、彼らは十分かどうか分かりませんが、食べることができて、とっても感謝しつつ、喜んで学んでいます。彼らは、サッカーコーチ、舞台アーティスト、ITのプロ、高校の先生、微生物学者、タミル語教授、海軍士官、電気技師、警察官という夢をもった10代後半の少年たちです。

このように、彼らに夢の実現に向けて希望を与えてくださいました皆さまに重ねて感謝申し上げます。今後とも皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

皆さまのうえに神の祝福とお恵みが豊かにありますようお祈りいたします。

2022年1月

DBK [ドン・ボスコ基金] 代表 濱口 秀昭
(サレジオ会日本管区長)

スリランカ ドン・ボスコ・マンクラム 院長と生徒からの 感謝のたより



ドン・ボスコ・マンクラム院長
ジェファーソン神父



ドン・ボスコ・マンクラムで学ぶ生徒たち

親愛なる恩人の皆様
ドン・ボスコ・マンクラム
からご挨拶します。

スリランカは先月(2020
年10月)まで元気でした。

他の国々が新型コロナウイルスのパンデミックでまさにダウンしていた頃、私たちは政府により採用された厳格な措置で安全に安心して過ごしていました。しかし今、国全体が新型コロナウイルスの第2波の猛攻撃に警戒しています。政府は経済危機を考慮して、まだ全国的なロックダウンを決めていません。皆様の安全をお祈り申し上げます。

過去数か月にわたる皆様からの財政的支援は、私たちが少年たちの世話をするのに大いに助けになりました。必要な食料品や果物を定期的に購入して、栄養価の高い食品を提供することができました。寛大なご支援をありがとうございます。

皆様が私たちを続けてご支援してくださるならば、私たちはこれらの少年たちが人生の目的を実現し、将来的に尊厳のある人生を送るのを助けることができます。

皆様に神のお恵みがありますように、そしてご健康をお祈りしています。

*10人の少年から、感謝のたよりが届いています。その内2通を下記にご紹介します。

親愛なる恩人の皆様

お元気でしょうか。まず初めに、私は皆様の助けに感謝します。皆様のおかげで、私たちは毎日おいしい食べ物を食べています。そして、私たちは良い教室で勉強することができます。

どうぞ今後ともご支援を続けてくださるようお願い

します。改めて心より感謝申し上げます。

A. Stephan Lagu

親愛なる恩人の皆様

私はドン・ボスコ・マンクラムにすることができて、とても幸せです。親愛なる恩人の皆様は、私たちの成長のために、可能な限りのご寄付をお送りくださり、私たちを助けてくださっています。

私たちは週に肉を4回、卵を1回、そして何日かは魚を食べています。夕方にはお茶とおやつをいただきます。これは皆様の愛の心のおかげです。

A. Anur Jan

ボリビア 倉橋神父と ボリビア管区への支援 感謝のたより



サレジオ会 ボリビア管区
レイナルド・ビジャゾン神父



お元気な倉橋神父
(2021年9月撮影)

親愛なる日本管区長様
DBKドン・ボスコ基金の
恩人の皆様

ファン・ボスコ倉橋神父
への寄付を受け取りまし
た。これらの資金は、サ
ンタフルスでのドン・ボス

コ・プロジェクトで困難な状況にある少年たちを助け、彼がサンタフルスにいる間に支援していた家族を助け、私たちの管区の宣教活動を助けるために使われます。

すべての恩人の皆様に感謝します。神が皆様の寛大さに、豊かな祝福で報いてくださいますように。

親愛なる兄弟と恩人へ感謝の気持ちを込めて、ボリビアのコチャバンバの管区本部修道院に住むファン倉橋神父の写真を送りします。

高齢ですが倉橋神父は元気です。看護職員とサレジオ会共同体による支援でケアを受けています。加齢により体力は低下してきていますが、陽気で素朴な心で、優れた才能をもっています。

繰り返しになりますが、皆様のご支援と、私たちのことを忘れずにいてくださることに感謝します。

日本 VIDES JAPAN ハッピーハウス& スマイルキッチンカー



スマイルキッチンカーでは低額で栄養とボリュームのあるランチを提供

サレジアン・シスターズ シスター 宮澤直子

ドン・ボスコ基金を通して、これまでハッピーハウスの活動にご支援くださった皆様に、心から感謝申し上げます。

コロナ禍にあって私たちVIDES JAPANでは、新たな取り組みとして、より必要とする人びとのところに「出向いていく」ために「スマイルキッチンカー」の活動を開始しました。今回、こちらの取り組みのためにもご支援いただき本当にありがとうございます。

VIDES JAPANでは、一昨年よりコロナ禍での「ハッピーハウス」の活動(青少年の居場所づくり)について、新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、従来のマンションの一室での活動が困難となり、一時期活動を休止する状態に追い込まれました。通常は、毎週2回、地域の小学生や中高生、そして保護者がやってきて、ユーススタッフやシニアスタッフ、シスターたちと一緒に、宿題や遊び、夕食作り、夕飯を食べ、楽しくおしゃべりが弾む家族団らんのような憩いのひとときを過ごしていました。互いの悩みを相談したりして、みんなの“安心できる居場所”となっていました。

ハッピーハウスに訪れていた家庭との関わりを継続することと、経済的な支援を行うことの必要性を感じ、毎月1回、各家庭に食糧支援を行い、子どもたちや保護者に会うようにし、またハッピーハウスのグループLINEで、互いに励まし合うように声掛けなどを行って

きました。

一昨年12月より、星美学園内の修道院の協力を得て、場所を広い部屋に移し、感染状況を見ながら「ハッピーハウス」の人数制限をしながら活動を徐々に再開していきました。

昨年3月には、VIDESで購入したキッチンカーを使用しながら、星美学園の敷地内(外)でハッピーハウスを始めました。皆が集うことができ始めたことで、お互いにこれまでのつながりが互いを支えあう力になっていたことが実感され、より絆が深められました。現在も活動中です。

また、コロナ禍で、より必要とする人びとのためにできることを私たちは検討し、AMIGOSなどの他団体と協働しながら、難民申請中や仮放免の外国籍の方々への衣類や食料支援、そして身近な人びとへの支援を開始しました。

特に継続的に行っている支援の一つに、星美学園短期大学の学生支援のために、スマイルキッチンカーで毎週1回、低額で栄養とボリュームのあるランチを提供し、学生から大変喜ばれています。コロナ禍で生活が厳しくなっている学生の支援のためなので、支援くださる方々のご寄付に支えられています。

今後も私たちは、必要とする人びとのもとへ出向いていき、少しずつ多くの人がスマイルになっていくことを願っています。

エチオピア 内戦による避難民救援 活動支援

サレジオ会日本管区
北川大介神父



エチオピア政府が2020年11月にTPLF(ティグレ人民解放戦線)に軍事攻撃を始めて以来、すでに1年が経っています。数百万人が避難生活を強いられ、紛争開始直後から食糧問題が危惧されていましたが、2021年6月に国連は35万人が飢餓状態にあると公表しました。集団虐殺や女性への人権侵害も報告されています。

ティグレ州にあるサレジオ会共同体による救援活動を支援するため、2021年7月にDBKドン・ボスコ基金よりエチオピア管区に50万円を送金いたしました。し



空爆により被災した街の様子

かしながら、インフラが破壊されているせいか、エチオピア管区本部も現地の会員と連絡がとれておらず、ニュースや個人のSNSから情報を得ているようです。2021年10月末にはティグレ州とのメケレにあるドン・ボスコ職業訓練学校付近が政府軍の空爆にさらされ、安否が心配されます。

TPLFが首都へ向かっての進軍を止めないと言え、首相はアディスアベバの人びとに「武器を取れ」と言う状態です。解決へ向けた国際的な介入も進んでいません。

祈る事しかできないかもしれませんが、極めて困難な時に直面している人びとを心に留めてください。

日本 ドン・ボスコ・オラトリオ 外国籍の若者たちの 居場所



調布サレジオ神学院に隣接するドン・ボスコ・オラトリオ

ドン・ボスコ・オラトリオ
春山ミカエルラップ神父

DBKの恩人の皆様へ

いつも私たちの活動を支えてくださって、感謝しております。皆様の支えと理解で私たちは安心して、若者たちのために働くことができます。

2020年6月、コロナ禍の中で外国籍の若者たちへの奉仕のために、ドン・ボスコ・オラトリオ(外国司牧センター)が始まりました。

「ドン・ボスコ・オラトリオが始まったきっかけは何ですか」とよく聞かれます。

私たちが、外国籍の若者たちへの司牧を行ううちに、外国籍の若者からの希望でドン・ボスコ・オラトリオが発足しました。若者たちから「憩いの場がほしい。安心できる場所がほしい。信徒の務めを充実したいので、信仰教育や秘跡にあずかりたい。また、母国語でゆるしの秘跡とミサにあずかりたい」との声が上がったのです。

また、コロナ禍で職を失い、そのため学校にも行けなくなり、帰国(ベトナム)を希望しましたが飛行機が飛ばないために行き場を失い、一時的にオラトリオで生活した青年もいました。

こうして、若者達の希望でドン・ボスコ・オラトリオは始まりました。

ここで、オラトリオに来る若者達の声を紹介したいと思います。

オラトリオに通って、感じたことは？

H: 素敵な場所です。レクリエーション、ダンス、音楽、交流、スポーツなどができ嬉しい。

C: サレジオ神学院の門に御像が見えました。誰だろうと思いました。今わかりました。ドン・ボスコという聖人です。知識が増えました。

D: オラトリオは家族のような雰囲気と場所です。まず、ミサにあずかることができ、仲間とも会えるのでありがたいのです。ここでは聖なる領域に来られたとも感じます。

V: 祈りをする場所です。グラウンドがあって、若者が身体を動かす場所です。

T: たくさんいいことがありますね。まず、神様のもとに戻れるところです。スポーツができて、交流ができます。意味のあるプログラムがあります。

N: オラトリオに来て家庭に帰ったような気持ちです。修道士、シスター、司祭方が父親、母親のような存在で、私たちが温かく迎えてくださり、ミサと祈りを共にして



スポーツを楽しむ若者たち

くださいます。同年代の仲間と出会えることがうれしいです。また、カテキズムや聖人たちについて学ぶことができ、私たちの信仰が深められます。

オラトリオに対する希望を自由に話してください

S: この場所と活動を継続してほしい。さらに有意義な新しいプログラムが行われますように。

E: シスター、修道士、司祭たちが私たちの憩いの場オラトリオに来てほしいです。

O: お互いに支え、関心をもつ人間関係が楽しくなるところでありますように。

一時的にオラトリオにいたが、帰国した若者の声

H: 頼るところがなく、オラトリオが受け入れてくださって、私は安心しました。オラトリオに最初に来た時は緊張しました。厳しいところだろうなと思っていました。神父様とどんな話ができるだろうかと気にしていました。しかし、一緒にいるうちに、修道士とシスターと神父様のやさしさと温かさを感じました。困らせて、怒られたこともありました。

オラトリオに滞在中に感動したのは、私が病気になる、お金がなく、保険もないため、病院に行くことは考えられませんでした。ところが、オラトリオの修道士が「心配しないで、このお金を使って医者に行っていって下さい」と言ってくれました。また、毎日祈りとボナノッテがあって、私の人生が変わりました。考える人間になりました。本当に感謝いたします。

D: 公園で生活をしようと思いました。その時、ドン・ボスコ・オラトリオには場所があるよと、あるシスターから教えられて連絡してみたところ、「いいよ。おいで」という元気な声でした。安心しました。僕は料理が得意で、毎日オラトリオと一緒に生活している仲間たちに料理を作りました。奉仕が出来たので、うれしかったのです。感謝を込めて。

2021年度の活動

第1日曜日: 調布青年(調布)

第2日曜日: 大和青年(大和)

第3日曜日: 浜松青年(浜松)

第4日曜日: オラトリオ(調布)

東ティモール 大水害緊急支援 感謝のたより



東ティモールの首都ディリでの水害の様子



ドン・ボスコ・コモロの学校では、一時4千人近い避難者を受け入れ

〔東ティモールの首都ディリで2021年4月初旬に大水害が発生し、現地のサレジオ会・サレジオ家族が被災者の受け入れや救援活動を行っているとの知らせを受け、東ティモール洪水被災者緊急支援の寄付を行いました。〕

サレジオ会 東ティモール管区財務

グイ・ド・カルモ・ダ・シルバ神父

日本管区長様、DBKの恩人の皆様

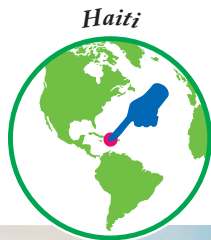
非常に困難な時期に貧しい人びとに皆様が示してくれた優しさに、心から感謝したいと思います。

皆様の思いやりと、東ティモールのディリ共同体を支援して下さったサレジオ会日本管区に感謝します。私たちは、愛する恩人の寛大な心に心から感謝します。

皆様の親切な心と寛大なご厚意に、私たちが報いることはできませんが、良き主は必要な時にすべてを報いてくださるでしょう！

私たちは、良き主が皆様一人ひとりと皆様のすべての行いにおいて祝福されることを祈っています！

ハイチ 学校増設プロジェクト ハイチの子どもたちの 未来のために



ハイチで建設中の校舎

サレジオン・シスターズ

開発事務所長

シスター・ピエール・ミルレーヌ・フェリックス

ハイチの学校のために支援してくださる恩人の皆様

私たちは、皆様の寛大な寄付金を心から感謝いたします。

ジョヴェネル・モイーズ大統領の暗殺後、ハイチが多くの困難に見舞われているこの時期に、ハイチの最も弱い立場にある若者を支援するために、特に、ヒンケに教室を建設するプロジェクトへのご支援に感謝します。ヒンケの教育施設には高校生を収容する部屋がないため、このプロジェクトの実施が急務となっていました。

皆様の支援は、私たちの心を感動させ、ドン・ボスコの交わりの精神と若者を救いたいという情熱を感じ



ハイチのサレジオン・シスターズの学校

ました。これで生徒たちはより良い環境で学ぶことができます。特に中等教育が受けられることが可能になります。

2021年8月4日現在、建設中であり完成するまでには、まだ、経済事情により時間がかかりますが、少しずつ工事が進んでおります。

私たちは、この建設中の写真が皆様にとって非常に有用であり、プロジェクトの進捗状況をより良く理解していただけることを願っています。

プロジェクトが完了した際には、さらに多くの写真を掲載した詳細なレポートをお届けしますので、これからもどうかよろしくお願いします。

皆様のために捧げる私たちの祈りをお受け取りください。サレジオ家族のすべての聖人が皆様のために執り成してくれますように。感謝のうちに。

南スーダン共和国 ジュバ修道院から 感謝のたより



グンボにあるドン・ボスコの教会。毎日曜日、アラビア語のミサ、バリア族の言葉のミサ、英語ミサの3つのミサがあります。写真は英語ミサに集まった若者と子どもたち。

イエスのカリタス修道会

ジュバ修道院一同

サレジオ家族の皆様、支援者の皆様へ

クリスマスと新年のお喜びをアフリカ南スーダン共和国より申し上げます。

新型コロナウイルスの影響で、世界中まだまだ大変な時ですが、今年こそは主が私たちを憐れみ、苦しみから救ってくださいますように。



ドン・ボスコ・テクニカルスクールのサッカーチーム



午前中は教室で勉強



サレジオン・シスターズの小学校で。このクラスは学校に通ったことのない女の子たちを対象に、午前の勉強後にパンやビスケット作りを教え、自立できる助けをしています。



ドン・ボスコ難民キャンプの子どもたちとシスター下崎

日本も大変な状況が続く中で、今年もDBKドン・ボスコ基金より、南スーダンへ寛大な寄付をいただき、心より感謝申し上げます。

南スーダンは、幸いに新型コロナウイルスの拡がりはほかの国ほどはなく、世界の状況に合わせながらロックダウンなども行われましたが、コロナの予防接種も行われ、人びとは通常の生活を送っています。コロナの影響はほとんどなかったものの、2度の内戦後の国内の安定はまだ時間がかかる状態で、ドン・ボスコの国内難民キャンプの人たちはまだ故郷の村に戻れず、いまだ8千人以上の人々がテント生活をしています。物価の変動、仕事不足、学校の不足など、村の人たちも、国の独立後の困難な状況は続いています。

皆様からの支援金は、ここサレジオ家族の宣教の場所で、食糧支援、学習支援、医療品のために使わせていただいています。毎年、定期的に南スーダンにもドン・ボスコ基金から支援して下さるおかげで、この地域の人びとは継続的な支援を受けて生活することができ

ています。

そして何よりもドン・ボスコのつながりで、日本と南スーダンが同じファミリーとして助けられているということの認識が人びとの中に浸透してきています。特に小教区が共にあるので、祈りをもって感謝をしています。若者たちには、助けられたので、次は自分たちが他の困っている人々を助ける人になりたいという心が育ってきています。今までは、一方的に助けられることが当然だと思っていましたから。

日本にも、職を失った方、子どもたちの食堂ができるなど、貧困の援助が必要だとニュースで聞きましたが、支援金がいくらあっても足りない状況が日本にもあるにもかかわらず、外国に目を向けることの寛大さに本当に感動と感謝をしています。

皆様の上に、そして世界の上に幼子イエス様の祝福がありますように、お祈りをささげさせていただきます。本当にありがとうございました。

感謝と祈りを込めて。

DBK[ドン・ボスコ基金]に ご支援くださった皆様

2021年3月1日～2021年9月30日の間に、DBK[ドン・ボスコ基金]にご寄付して下さった方々です。

匿名の方も含めまして、恩人の皆様からの寛大なご支援とお祈りに、心より感謝申し上げます。

【個人】〔敬称略〕

安部 恭子、安部 博文、阿部 正子、阿部 泰久、甘利 理香、新井 顯保、有田 美智子、飯島 美智子、飯沼 武、五十嵐 迪夫、池尾 久美、石井 真紀子、石崎 真理子、伊豆田 正之、伊藤 紀子、伊藤 正高、今村 信之、岩田 卓三、宇田川 晴子、梅田 博子、梅原 彰、江口 政江、榎戸 敬三、大石 雅子、大熊 理津子、大西 たづ、岡田 尚彦・久美子、岡本 健吾・昌子、小椋 久光、小山田 匡宏、葛西 宏子、梶田 みどり、加藤 恭平、加藤 慎次郎、川尻 達也、木佐貫 節子、藏本 麻里、栗本 幸子、毛塚 隆之、小島 毅、小林 由加、近藤 幸恵、坂本 順子、坂本 秀子、佐々木 恵子、佐藤 朝子、佐藤 香代子、佐野 淑子、三永 典子、椎原 伊三男・園美、柴崎 憲子、島本 メリエ、清水 郁子、下里 亘、正司 尚子、白水 泰子、杉浦 克子、杉本 俊郎、杉山 信彦、須田 和子、関山 すの、曾根 美香、田内 裕子、高木 信子、高島 晶子、高瀬 由紀子、高野 仁、高橋 佐和子、高橋 廣見・京子・美里奈・愛、田口 純子、橋 りつ、田中 博、塚本 慎一、辻村 寛行、辻村 光弘、友村 忠司、鳥居 孝一、中野 隆正、中村 妙子、中村 ツイ、西ヶ谷 裕子、西澤 千代子、西田 浩朗、西山 裕子、貫井 さよ子、野口 幸子、野田 朋花、長谷 幸子、浜崎 廣光、日向 育子、平井 隆史、平川 厚子、平松 ケイ子、広川 澄子、福岡 慶子、福地 直義、藤田 満智子、藤村 栄三郎、古木 裕行、古田 信子、前田 太、前田 安雄、正岡 武人、松田 宏紀、松田 律子、松本 辰也、御崎 政昭、宮崎 智子、宮脇 和子、三好 明子、モチツキ ノリコ、森田 和代、森田 善和、八木下 泰博、柳沢 智子、山下 君代、山田 美恵、カトリックさいたま教区司教山野内倫昭、山本 朋弥、山本 秀子、横山 多津枝、吉田 邦利、吉田 紀子、与曾田 一雄、与曾田 知子、和田 恵美子、和田 静

【団体】〔敬称略〕

榊らど建築 高島 信博、イエスのカリタス会松本修道院、イエスのカリタス修道会管区本部修道院、イエスのカリタス修道会福岡修道院、大分明星幼稚園、幼きイエズス会 内坪井修道院、カトリック掛川教会ブラジル共同体、カトリックカリタス修道会、カトリック浜松教会、カトリック浜松教会ブラジル共同体、カトリック碑文谷教会、カトリック富士教会ブラジル共同体、カトリック三島教会ブラジル共同体、カトリック大和教会ブラジル共同体、亀川修道院、カリタス学園同窓会、カリタス小学校、カリタス女子中学高等学校、コアラ調布 代表 毛原 岳、サレジオニ・コオペラトリ日本管区、サレジオニ・コオペラトリ別府支部、サレジオン・シスターズ別府修道院、サレジオン・シスターズ マンマ・マルゲリータ修道院、サレジオン・シスターズ大村修道院、サレジオン・シスターズ管区長館、サレジオン・シスターズ玉造修道院、サレジオン・シスターズ調布聖ヨセフ修道院、サレジオン・シスターズ扶助者聖マリア修道院、サレジオン・シスターズ目黒修道院、サレジオン・シスターズ守護の天使修道院、サレジオ学院キルトBee保護者会、シトー会那須の聖母修道院（那須トラピスト修道院）、守護の天使修道院、護国学園中学高等学校、星美学園小学校、星美学園短期大学 ウチコシ ミュキ、調布サレジオ修道院、ドン・ボスコ社（店頭募金）、長崎星美学園、長崎星美幼稚園、目黒星美学園小学校

【匿名の方】 63件

DBK [ドン・ボスコ基金] へのご支援とお祈りを、
今後ともよろしくお願いいたします。

DBKだより
第26号

2022年1月15日

発行人 濱口 秀昭

発行所 ドン・ボスコ基金

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12

サレジオ会日本管区本部内

Tel:03-3353-8355 Fax:03-3353-7190

Email: dbkinfo@salesians.jp

https://salesio.jp/about/dbk

ドン・ボスコ基金 2020年度収支報告書

(2020年4月1日～2021年3月31日)

(単位: 円)

収入の部			支出の部		
寄付希望先	金額	備考	寄付先	金額	備考
ハッピーハウス	8,000		ハッピーハウス(FMA)	400,000	
Kiitos	7,848		Kiitos	200,000	
日本国内	256,022		ドン・ボスコ オラトリオ (SDB)	200,000	
			星美ホーム (FMA)	500,000	
			浜松教会学習支援	500,000	
			多文化共生センター	300,000	
ボリビア (倉橋神父)	840,081	*	ボリビア (SDB)	1,600,000	*2
ソロモン諸島	2,848		ソロモン諸島 (SDB)	500,000	*2
ベトナム	1,848		ベトナム (SDB)	550,000	*2
東ティモール	133,833		東ティモール (SDB)	300,000	*2
			スリランカ (SDB)	500,000	*2
			フィリピン (SDB)	500,000	*2
			エチオピア (SDB)	500,000	*2
モンゴル	252,802		モンゴル (FMA)	1,000,000	*3
			ハイチ (FMA)	1,000,000	*3
南スーダン	408,909		南スーダン (SCG)	1,500,000	*4
ペルー	3,000		ペルー・ボリビア (SCG)	200,000	*4
			ブラジル (SCG)	500,000	*4
			アルゼンチン (SCG)	200,000	*4,5
			フィリピン 孤児院	300,000	
シリア	55,733	*1			
任意	5,682,420				
寄付金 小計	7,653,344		寄付金 小計	11,250,000	
銀行口座利息	14		寄付金送金手数料	41,640	
			DBKだより発行分	227,195	
			事務関係経費	33,610	
			諸経費 小計	302,445	
前年度繰越金	4,949,691		次年度繰越金	1,050,604	
収入の部 合計	12,603,049		支出の部 合計	12,603,049	

*収入の部は2020年4月1日から2021年3月31日までに受け入れた寄付金の金額の総計となっています。

**支出の部は2021年3月31日までの受入資金を分配して送金したものです。

略号の説明 SDB: サレジオ会、FMA: サレジオンシスターズ、SCG: イエスのカリタス会 () のものは関係修道会

※1 シリアへの寄付は昨年度、今年度集まった寄付以上に送金しておりますので、送金を見合わせました。

※2 サレジオ会関係の国際送金はサレジオ会日本管区本部経由で送金いたしました。

※3 サレジオン・シスターズ関係の国際送金はサレジオン・シスターズ日本管区本部経由で送金いたしました。

※4 イエスのカリタス会関係の国際送金はイエスのカリタス会日本管区本部経由で送金いたしました。

※5 アルゼンチンへの寄付は過年度からの寄付がありましたので、併せて送金いたしました。印のない寄付先はドン・ボスコ基金口座から直接送金しております。



DBK[ドン・ボスコ基金] は、特に助けが必要な青少年の保護育成を支援する、サレジオの基金です。

サレジオ会の創立者ドン・ボスコの精神を受け継ぎ、貧困・家庭問題・災害等により、特に助けを必要とする青少年を保護育成する国内外のプロジェクトを支援しています。



DBKウェブサイト
「DBKだより」
バックナンバーも
ご覧いただけます

ご寄付くださる方は以下にお振り込みください。

郵便振替口座名: ドン・ボスコ基金
口座番号: 00190-5-292253

●他の金融機関からお振込みの場合
金融機関: ゆうちょ銀行 店名: 〇一九 (ゼロイチキウウ)
預金種類: 当座預金 口座番号: 0292253

*寄付者氏名の非公表をご希望の方は、
払込用紙に「匿名希望」(※チェックマーク)を
ご記入ください。



恩人の皆様と支援先の方々のためにミサを
ささげるDBKスタッフ